

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（南伊勢高校 南勢校舎）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献するひとを育成する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自立に向け、基本的な生活習慣と基礎学力を身につけた生徒 ○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒 ○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒
	ありたい 教職員像	○共通認識のもと、生徒に寄り添い、生徒の個性を最大限伸ばさせる教職員 ○小規模校・校舎制の利点を活かす新しい発想を創造し実践する教職員 ○地域と共に歩み、地域から信頼される学校づくりを行う教職員 ○県立高等学校活性化計画（平成29年3月）をふまえ、活力ある教育活動を展開する教職員 ○総勤務時間縮減を意識し、ワークライフバランスを大切にしている教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒・保護者> 基礎学力の定着。規律ある充実した学校生活。希望進路の実現。</p> <p><地域社会> 将来的に、地元地域で生活し、地域社会に貢献できる人材の育成。</p> <p><中学校> 学習面、生活面での中学校からの指導の継続。将来自立できるための力の育成。取組内容の中学生及びその保護者への浸透</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 学力向上。確かな進路保障。 学校との信頼関係。</p> <p><町・町教育委員会> 地元地域の活性化を担う人材育成。 生徒の進路保障。</p> <p><地元企業等> 将来的に、地元地域に勤め、地域社会を支えてくれる人材の育成。</p> <p><NPO等地域活動団体> SBPを中心とした生徒による地域活性化への貢献。</p>	<p><保護者> 学校と連携した家庭での生活指導。学習活動への協力。</p> <p><町・町教育委員会> 連携型中高一貫教育をはじめ、コミュニティ・スクールとしての発展に向けた協力。高大連携の協力。地元への就職支援。</p> <p><地元企業等> インターンシップ等教育活動への協力。地元企業の採用増加。</p> <p><NPO等地域活動団体> SBPを中心として、生徒が活躍できる多様な機会の提供。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた生徒の活動状況（SBPやふるさと劇団等）の地域に対する貢献度は大きい。 ・生徒のバス乗車や学校周辺での行動においてマナーに課題があり、継続的な指導が必要である。 ・近隣中学校生徒との交流活動を活発化させ、中学生が行きたい高校となるよう地道な活動が必要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>少数ではあるが多様な生徒が在籍するなかで、基礎基本の定着を大切にした教育の実践と生徒一人ひとりへのきめ細かな指導により、地域から一定の評価を得ている。連携型中高一貫教育による教育の連続性、また町の支援により進学等課外指導や就職支援員による就職支援等で成果を上げている。</p> <p>今後、少人数教育を行う中で、メリットをより活かし、デメリットを最小限にする教育活動方法を構築する必要がある。</p>	

学校運営等	<p>新たにコミュニティ・スクールとして教育活動を実施する中で、地域の支援を得て、地域創生アドバンスコースを展開する。地域で唯一の県立高校として、地域への貢献も視野に入れ、SBP活動・防災活動・防災教育・ふるさと劇団等様々な取組を行い、魅力的な学校づくりを行っている。</p> <p>少子化の流れもあり、入学者数の減少に歯止めがかからないことが最大の課題である。</p>
-------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の命を尊重し、社会的自立に向けて基礎基本の学力と差別をなくす実践力を身につけさせるとともに、高い自己肯定感を持ち、自ら考え適切に行動できる生徒を育成します。 ・ 個々の能力・適性に応じて、自らの将来を主体的に考え、希望進路の実現に向けて積極的に取り組む生徒を育成します。 ・ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀をしっかりと身につけ、心身ともに健康な生徒を育成します。 ・ 小規模校のメリットを最大限活かし、デメリットをなくす教育活動を実践します。 ・ 二校舎を取り巻く自然環境や文化を活かした教育活動を行うとともに、合同の部活動等を通じて生徒の交流を促進します。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様な主体と協働し、地域からより信頼され、選ばれる学校づくりを図ります。 ・ 業務改善を積極的に行い、勤務時間の縮減に努めることにより、より質の高い教育を目指すとともに、ワークライフバランスに配慮しながら教員の一層の資質向上に取り組めます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1) 基礎学力の育成・定着を図ります。</p> <p>【活動指標】基礎学力ウィークを年2回実施するとともに、基礎力診断テストを年3回(1・2年生)実施。</p> <p>【成果指標】基礎力診断テストの成績上昇率50%を目指します。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
	<p>(2) 基本的な生活習慣や社会的規律の定着を図ります。</p> <p>【活動指標】遅刻、入室許可(授業中退室)の集計を行い、指導の徹底に活かします。</p> <p>【成果指標】遅刻、授業中退室の回数の50%以上の減少を目指します。</p>		※

キャリア教育の充実	<p>(1) 将来にわたり社会への貢献を考えさせるとともに、就職内定、公務員試験合格、進学志望校合格 100%を目指します。</p> <p>(2) 社会人として必要な態度・マナーを修得させます。</p> <p>(3) 自らの適性を理解し、将来を考え、自己肯定感を持って日常生活に臨むとともに、生きることの尊さ、生命のかけがえなさを理解し、自他の生命を尊重する姿勢を育てます。</p>	※ ◎
-----------	---	------------

改善課題

(年度末に記載)

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取り組み	<p>(1) 教職員等を対象とした人権教育研修を行います。</p> <p>(2) 特別支援教育についての研修会を実施し、生徒の実態に即した対応が出来るようにします。</p> <p>【活動指標】人権講演会…年1回、 特別支援教育研修…年1回</p>	(年度末および適宜記載)	◎
情報提供による信頼の構築	<p>(1) ホームページによる情報提供 【活動指標】ホームページの更新 年間10回以上</p> <p>(2) 授業公開、学校見学会等の実施 【活動指標】年間2回</p> <p>(3) コミュニティ通信を発行し、町内すべての中学校の児童・生徒に配付するとともに、町内39自治会に配付し、回覧してもらう。 【活動指標】年5回以上</p>		※
働きやすい職場環境づくり	<p>(1) 総勤務時間の縮減を図るため業務改善に努めるとともに、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外労働時間の縮減 月あたり4時間 ・ 休暇取得日数 年あたり1日分 ・ 定時退校日の設定 月あたり1日 ・ 部活動休養日の設定 週あたり1日 ・ 会議時間の短縮のために資料の精選 		※

改善課題

(年度末に記載)

5 学校運営協議会委員評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)